

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ● 京丹波

# 京丹波

No.43

2009年  
5月14日発行

手作りの「このぼり」で  
季節を感じて

特集

交通事故を防ぐために



今月の表紙

4月28日に生涯学習センターで行われた「こいのぼり作り」。参加者らは、上豊田保育所の保育士に作り方を教わりながら、色とりどりのかわいらしいこいのぼりを作っていました。

広報 京丹波 No.43 CONTENTS

2 ●特集 交通事故を防ぐために

6 [シリーズ]まちづくりスクエア  
—「住民自治組織によるまちづくり」に向けて

8 23年度までの方策を示す  
「第2期障害福祉計画」を策定

10 人の動き

12 Dr's Message いきいき健康術

13 フラッシュ TOWN NEWS 2009  
地域の安心・安全を守る消防団に40人が入団  
—京丹波町消防団入退団及び役員任命式  
調和をテーマに今年も盛大に開催  
—ふるさと人形展  
総務大臣から感謝状を贈呈  
—行政相談委員を退任された山崎さんと藤井さんに感謝状を授与  
京丹波町の中核病院として新たなスタート  
—国保京丹波町病院看板除幕式  
景気対策と多子世帯の負担軽減を目指して  
—一定額給付金と子育て応援特別手当の  
—斉申請受付を実施  
いざというときに備えて  
—「京丹波町防災マップ」を作成  
期待と希望を胸に新たなスタート  
—入学・入園式  
視聴者ニーズの把握や効率的な情報収集に期待  
—瑞穂ケーブルテレビ運営委員会と  
放送番組審議会が答申書を提出

16 【まちの元気人⑩】北村始子さん

特集

# 交通事故を防ぐために

わたしたちの身の回りで起こる悲惨な交通事故。ふとした気の緩みが、尊い生命を一瞬にして奪い去ります。交通事故による被害を防ぐためにも、日ごろから交通安全に心がけてください。

## 多発する交通事故

本町には、京都縦貫自動車道をはじめ、国道九号や二七号、一七三号を中心とした道路網が整備され、日ごろから多くの自動車などが行き交います。

交通事故の中で高い割合を占める自動車事故は、運転者の不注意や交通ルールを守らなかったことが原因となることが多くあります。そのため、「あ」ときに気を付けていれば」など、事故が起きた後に後悔する声を多く聞きます。

交通事故は、日ごろからの備えと心がけで防ぐことができます。「自分は大丈夫」と過信せずに、周囲に気を配りながら安全運転に努めることが大切です。

南丹警察署管内では、昨年二百七十七件の交通事故(物損除く)が発生し、十人の方が亡くなりました。特に昨年は交通事故死亡事故が多発したため、町として初めて「交通事故多発警報」を発令する事態となりました。

昨年度に南丹警察署管内および京丹波町内で発生した交通事故件数は「表1」とおりです。

## 緊急事態を受けて 交通事故多発警報を発令

本町では昨年八月、五件の交通事故が発生し、二名の方が亡くなりました。そのような緊急事態を受けて町は、八月十四日―二十三日までの十日間、「交通事故多発警報」を発令し、町民のみならずに注意を促しました。

同警報は、三十日以内に町内で交通事故が五件以上発生し、二人以上が死亡さ

南丹警察署管内における交通事故の発生状況(表1)

事故の発生状況	南丹警察署管内			京丹波町内		
	平成20年	平成19年	増減	平成20年	平成19年	増減
発生件数	277	245	+32	104	82	+22
死者数	10	4	+6	4	2	+2
負傷者数	361	354	+7	143	138	+5
物損件数	1,777	1,728	+49	637	537	+100

※件数などは、各年1月1日～12月31日までで集計しています。

## 交通安全を目指した活動

本町では、「南丹船井交通安全協会京丹波支部をはじめ、「京丹波町交通指導員」や「地域交通安全活動推進員協議会」のみならず、交通安全を予防するために日ごろから啓発活動などを展開されています。

また、府内全域で交通事故が多発する緊急事態を受けて、本年一月には京都府全体で同警報が発令される事態となりました。



# 交通事故を防ぐためにわたしたちが活動します



支部長  
上田次雄さん(妙楽寺)

## 南丹船井交通安全協会京丹波支部

南丹船井交通安全協会は、地域のみならずの交通安全意識を高めることを目的に、啓発ノボリや横断幕の設置、街頭啓発などを実施しています。

当支部では、同協会の活動以外にも、より多くの人に啓発することを目的に、支部だよりの発行をはじめ、交通安全ポスターコンクールや事業所訪問、交通安全祈願祭などの独自活動を展開しています。

自動車事故は、道路を走行するすべての人に関係するので、自分自身が走り慣れた道であっても十分な注意が必要です。特に行楽シーズンは、運転疲れやわき見運転などが事故原因になることが多くあるので、事故を防ぐためにも周りのことを考えた運転をしてほしいと思います。

また、交通安全の基本は「交通ルールを守る」ことなので、みなさんも初心に戻って安全運転心がけてください。

## 京丹波町交通指導員



指導員長  
軽尾圭造さん(鎌谷下)

交通指導員は、毎月一日と十五日の二回、交通量の多い交差点などに立ち、小・中学校へ通学する子どもたちに交通安全指導を行っています。

交通事故を防ぐには日ごろからの心がけが大切なので、街頭啓発を行う指導員の姿を目印に、「交通ルールを守れているか」を再確認いただきたいと思います。特に運転中の携帯電話使用は、事故につながる危険な行為なので、交通ルールに従って使用しないようにしてください。

また、街頭啓発では、通学中の子どもたちとコミュニケーションをとるために、あいさつや「今日は学校で何があるの」などの言葉をかけるようにしています。交通事故を防ぐためにも、地域内のコミュニケーションの輪を広げ、注意し合える関係を築いていきたいと思っています。

## 地域交通安全活動推進員協議会



会長  
梅原 謙二さん(南丹市園部町)

本協議会は、南丹警察署長から委嘱された委員十八人(丹波地区三人、瑞穂地区二人、和知地区四人、南丹市九人)で構成し、京丹波町や南丹市の道の駅などで月に三〜四回、交通事故防止を目的とした啓発活動を警察と連携して行っています。

また、自転車の安全な利用を促進するために設置された「京都府自転車安全利用推進員」に八人の委員が兼務で委嘱されており、各学校で行われる自転車交通安全教室で指導をするともに、子どもの交通安全意識の向上に努めています。

事故は、いつ、だれが起こすかわかりません。委員一人ひとりが「交通事故が起きないように」との思いで活動していますので、安心・安全な地域社会の実現を目指して、地域一丸となった取り組みが展開できるように努めていきたいと思っています。

## 全国的に展開される交通安全運動

交通事故防止を目指して毎年、「全国交通安全運動」と「交通事故防止府民運動」が実施されます。

この運動は、行楽シーズンなどで交通事故の発生が懸念される時期に併せて、すでに実施された「春の全国交通安全運動」をはじめ、夏・秋年末の計四回、次の期間で計画されています。

- ・夏の交通事故防止府民運動  
七月二十一日―八月二十日
- ・秋の全国交通安全運動  
九月二十一日―三十日
- ・年末の交通事故防止府民運動  
十二月十一日―三十一日

なお、春の全国交通安全運動の期間中(四月六日―十五日)には、防犯対策と交通安全の大切さを呼びかけることを目的に、「南丹船井防犯・交通安全のつどい」が開催されました。



## 日ごろの心がけで交通事故防止を

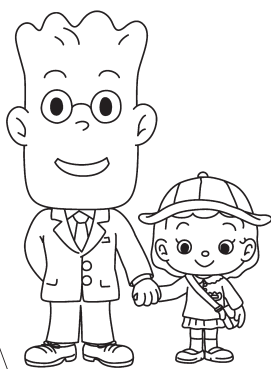
交通事故を防ぐには、一人ひとりの心がけが大切です。みなさんも交通ルールを守るとともに、交通事故を予防するために日ごろから次のことに注意しましょう。

### ■道路には飛び出さない

子どもが通学路や自宅周辺などで道路に飛び出さないように、保護者が交通ルールを守って手本を示す。また、道路を渡るときは横断歩道を利用する。

#### 【注意点】

道路を渡る前には、必ず一度止まって周りを確認する。



### ■一時停止の標識を確認する

自転車で乗車するときは、「止まれ」の標識を確認し、停止線の前で一旦停止をする。また、十三歳未満の子どもが自転車で乗るときは、安全のためにヘルメットをかぶらせる。

### ■安全を確認してから道路を横断する

高齢者の方が事故に巻き込まれる要因としては、警戒心や脚力の低下などが考えられるので、周囲が見渡せる場所で左右をよく確認してから道路を横断する。

#### 【注意点】

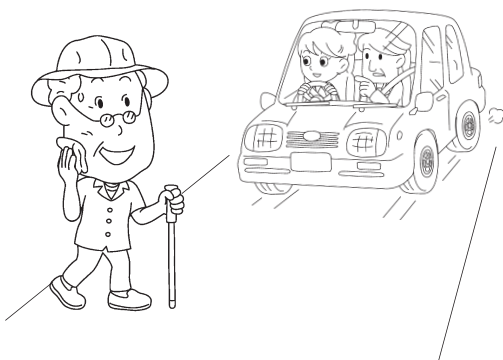
「渡れるかも」と思ったときは、無理をせずに安全と思えるタイミングまで待つ。

### ■子どもや高齢者の歩行に気を付ける

横断していたり、横断しそうな子どもや高齢者を見つけたときは自動車を減速する。

#### 【注意点】

夕暮れ時は視界が悪く、周囲からも自動車が確認しにくいので、早めのライト点灯を心がける。



携帯電話で現金自動預払機まで誘導される様子を人形浄瑠璃で表現(道の駅「和」道路情報センター・坂原)



会場全体を巻き込んだ警察音楽隊の演奏

ワークショップで意識を共有し、みんなで地域の未来を展望しよう。

# 開いてみませんか。地域力向上会議

地域力向上会議とは、区や婦人会、消防団、子ども会、老人会など、地域内の幅広い人材で地域の課題や魅力を話し合い、これからの地域のあり方を見出していく取り組みです。会議には町のまちづくり推進担当が出席し、進行をサポートします。

地域力向上会議プログラム(例) Workshop Program	
打ち合わせ	会議の回数や内容などを参加者と共に検討。
グループワーク	テーマは「地域の魅力・課題を探ろう」。
住民アンケート	地域住民を対象に実施し、意見を集約。
グループワーク	テーマは「自分たちでできることを考えよう」。
フィールドワーク	実際に地域に出て、魅力や課題を再認識。
グループワーク	具体的な活動の企画書をつくる。
グループワーク	活動の実践や課題解決のシステムを考える。

【主催】地域  
【参加者数】20~30人程度  
【会議形式】グループワーク形式

※上の表は一例です。会議の回数や内容は、参加者のみなさんと打ち合わせをして決定します。

ここがイイ!  
**01** なごやかに、楽しい雰囲気でお話し合おう。  
グループワークは、「人の意見を否定しない」のがルール。いろいろな考え方や意見を互いが尊重し合いながら、なごやかに楽しい雰囲気でお話し合います。

ここがイイ!  
**02** 幅広い人材で、未来を語る。  
区の役員や女性、若い世代、お年寄りなど幅広い人材が集い、農業や福祉、Uターン者の受け入れ対策など、地域課題を解決し未来をひらくアイデアを出し合います。

ここがイイ!  
**03** 個々の思いを「地域全体の思い」へ。  
地域の魅力や課題、将来の展望を話し合い、地域づくりへの思いを互いに共有できたとき、そこには明日の地域づくりへとつながる大きな力が芽生えます。

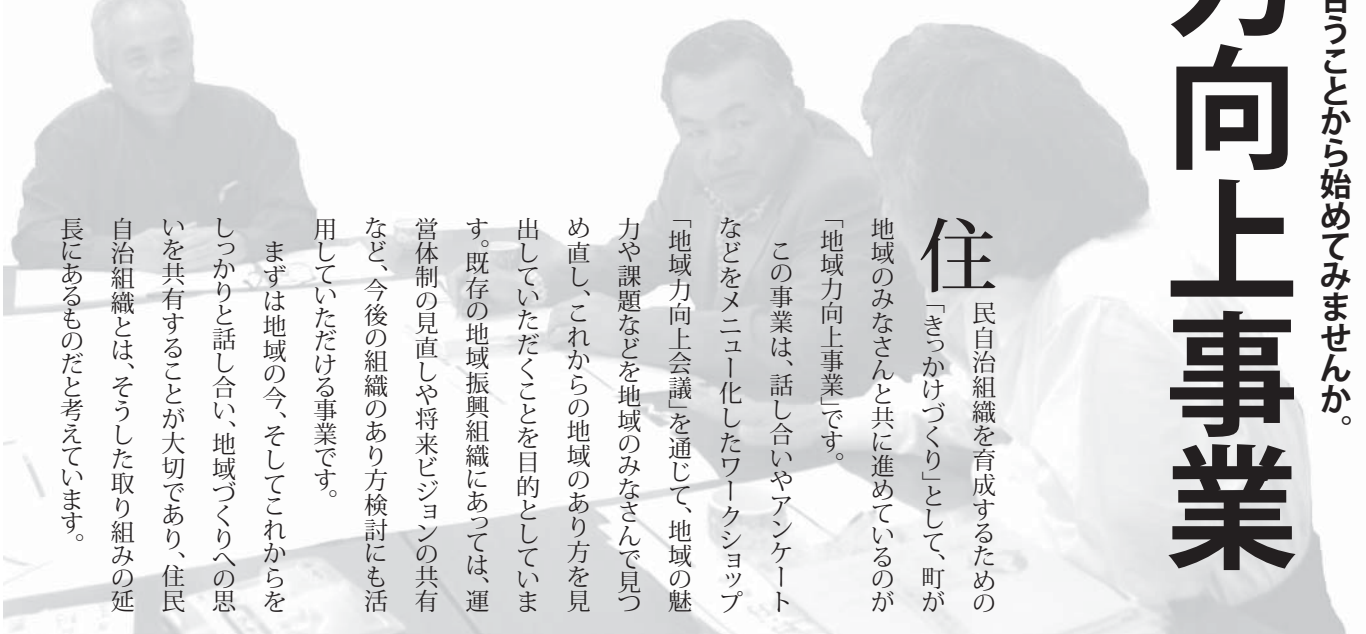
**地域力向上会議はグループワークで進めます。**  
大勢で、互いの様子をうかがいながら話し合っても、なかなか意見が出ません。そういったときに効果的な会議手法が、少人数で話し合う「グループワーク」。カードを使ったグループワークでは、一人ひとりの言葉やイメージをカード(付せん)に書いて大きな紙に張り出し、それを見ながら話し合うので、意見が共有されやすく、楽しい雰囲気の中で充実した話し合いができるのが利点です。

# 地域で未来を語ろう。

「住み良い地域にしたい」。そんな一人ひとりの思いを、地域全体の行動に移していくには「意識の共有」が欠かせません。すなわち、地域住民みんなで、地域の魅力や課題、将来の展望などを話し合い、これからの地域づくりへの思いを互いに共有できたとき、そこには地域を動かす大きな行動力が生まれます。

このように話し合いを通じて、これからの地域づくりの「きっかけ」をつくるのが「地域力向上事業」です。

過疎や少子高齢化などにより、農山村地域を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、そういう今だからこそ、地域の幅広い人材の英知を結集し、地域の未来を語り合う必要があるのではないのでしょうか。明日の地域づくりを、話し合うことから始めてみませんか。



**住** 民自治組織を育成するための「きっかけづくり」として、町が地域のみなさんと共に進めているのが「地域力向上事業」です。  
この事業は、話し合いやアンケートなどをメニュー化したワークショップ「地域力向上会議」を通じて、地域の魅力や課題などを地域のみなさんで見つめ直し、これからの地域のあり方を見出していくことを目的としています。既存の地域振興組織にあつては、運営体制の見直しや将来ビジョンの共有など、今後の組織のあり方検討にも活用していただける事業です。  
まずは地域の今、そしてこれからをしっかりとお話し合い、地域づくりへの思いを共有することが大切であり、住民自治組織とは、そうした取り組みの延長にあるものだと考えています。

Series **8**

# 地域力向上事業

明日の地域づくりを話し合うことから始めてみませんか。

地域力向上事業に取り組む地域を、財政面でしっかりサポート。

## 地域力向上事業交付金

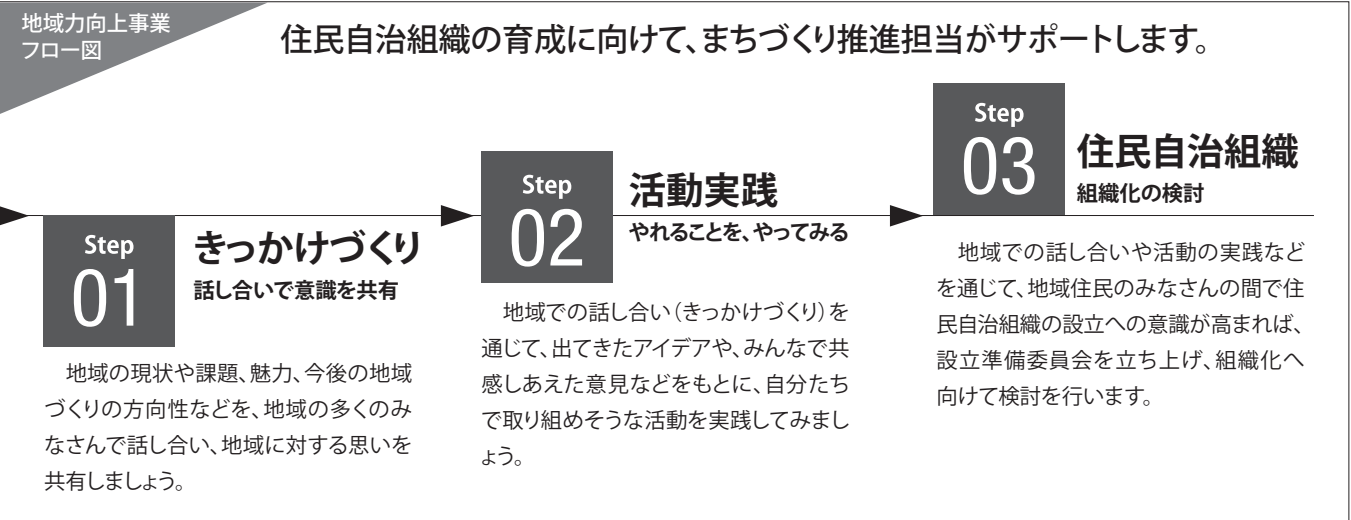
交付金額	上限 <b>50,000円</b>
交付対象	おおむね小学校区の地域住民で構成する住民自治組織 および住民自治組織の組織化を目的とした団体
スケジュール	交付金申請から事業完了までの流れ

### ■交付金支出例

項目	金額(円)	内容
消耗品	10,000	模造紙、付箋など
印刷費	5,000	資料印刷など
食糧費	21,000	湯茶代など
使用料	14,000	会場使用料など
合計	50,000	



希望される場合は、まちづくり推進担当にお問い合わせください。



## 23年度までの方策を示す

# 「第2期障害福祉計画」を策定



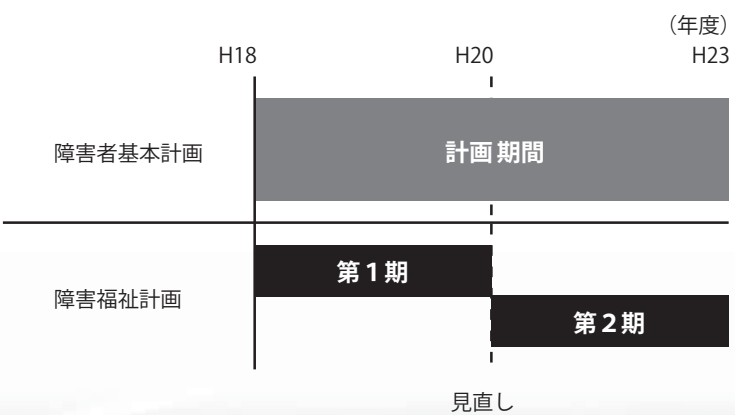
障害者保健福祉施策の基本目標や方針などを定めた「京丹波町障害者基本計画」(平成19年3月策定)。「ノーマライゼーション」と「リハビリテーション」を基本理念に、障害のある人もない人も、すべての住民が相互に人格と個性を尊重し、支えあう「共生社会」の実現と、障害のある人が住み慣れた地域で必要な支援を受けながら、自分らしく生活することができる地域社会を目指します。

町はこのほど、同計画を推進するための具体的な取り組み内容などを定めた「第2期京丹波町障害福祉計画(以下「第2期計画」)」を策定しました。

### 計画策定の背景と位置付け

障害福祉計画は、本町のまちづくりの方向性を定めた「京丹波町総合計画」を上位計画とし、本町の障害者保健福祉施策の柱となる「障害者基本計画」を実現するための具体的な数値目標やサービス見込量、それらを実現するための方策などを示しています。同計画は、平成十八年度―二十年度を第一期、二十一年度―二十三年度を第二期とし、二十年度に第一期計画が終了することから、達成状況や課題などを検証した上で見直しを行いました。(表1参照)

障害者基本計画と障害福祉計画の関係図(表1)



### 計画作成に向けた協議

「京丹波町地域自立支援協議会」(上田良一<sup>いち</sup>会長、十五人は、第一期計画の検証をはじめ、障害者を取り巻く現状や課題などを協議するため二回の会議を開催。同協議会は、広く町民の意見を反映するために実施したパブリックコメントの意見も踏まえた上で、計画内容をまとめました。

計画策定に向けて議論を重ねる委員(瑞穂保健福祉センター・和田)

## 障害福祉サービスの必要量確保に向けた方策

第二期計画では、具体的な数値目標やサービス見込量などを定め、目標を達成するための方策を次のとおり示しています。

### 障害福祉サービス

#### ●訪問系サービス(居宅介護など)

サービス未利用者に対して、サービス内容などの情報を提供し、利用を促進するとともに、介護保険サービスでは支援が不十分な人に対して障害福祉サービスからの支援を行います。

ヘルパー不足の解消には、京都府で実施される養成研修などの案内を積極的に行います。

また、家族介護の負担軽減を図るために、サービスの積極的な利用を奨励します。

#### ●短期入所サービス

緊急時に受け入れが可能な体制を整えるため、安定したサービス量の確保に努めます。また、緊急時の利用に支障がないように、事前に障害程度区分認定を受けるよう奨励します。

#### ●日中活動系サービス(生活介護など)

利用者の選択の幅が広がるよう、新たなサービス事業者の参入を促進します。療養介護と自立訓練は、京都府や近隣市町と連携を図りながらサービス事業者

の確保に努め、利用ニーズに対応できる体制づくりに取り組みます。

児童デイサービスは、町が実施している「療育教室」を継続する一方、同サービスを提供する事業者の確保に努めます。

就労移行支援は、京都府や関係機関と連携を図りながらサービス事業者の確保に努め、障害者の一般就労への移行を支援します。

#### ●居住系サービス(施設入所支援など)

福祉施設入所者や退院可能な精神障害者の地域生活への移行を促進するとともに、利用者ニーズを把握しながら、グループホーム、ケアホームを計画的に整備します。なお、通所の利便性を図る観点から共同作業所近隣の整備を図るなどの方策を検討します。

また、利用者ニーズに的確に対応できるように、施設の空き情報の把握などに努めます。

#### ●相談支援サービス利用計画書作成

障害福祉サービスなどを提供するために、専門職との連携による情報提供や事業の周知・広報を強化します。

また、町内に相談支援事業所がないため、引き続きサービス事業者の確保に努めます。

### 地域生活支援事業

#### ●相談支援事業

「障害者相談の日」の周知・広報を強化し、利用の促進を図ります。

### 計画作成に向けた協議

「京丹波町地域自立支援協議会」(上田良一<sup>いち</sup>会長、十五人は、第一期計画の検証をはじめ、障害者を取り巻く現状や課題などを協議するため二回の会議を開催。同協議会は、広く町民の意見を反映するために実施したパブリックコメントの意見も踏まえた上で、計画内容をまとめました。

#### ●社会参加促進事業

養成研修受講者の増加を図るため、効果的な方法での周知・広報を推進するとともに、受講者が参加しやすい会場や時間設定による研修の開催に努めます。

#### ●自動車運転免許取得・改造助成事業

事業の周知・広報に努め、利用の促進を図ります。

### 用語説明(事業内容説明)

「ノーマライゼーション」  
障害のある人を特別視するのではなく、社会の中で普通の生活が送れるような条件を整えるべきであり、共に生きる社会こそ普通の社会であるという考え方。

「リハビリテーション」  
障害のある人の身体的、精神的、社会的な適応能力の回復を図るための技術的な訓練プログラムにとどまらず、そのライフステージのすべての段階で、社会的・経済的に普通の生活を営むことのできる状態を保障することができるよう援助する。障害のある人の自立と参加を目指す障害者施策の理念。

「ヘルパーコメント」  
行政機関が政策などを決めるときに、その案を広く公表し、国民や事業者からの意見・情報・専門的知識を得て、公正な意思決定をするための手続き。

「児童デイサービス」  
障害のある児童に対して、日常生活での基本的な動作の指導や集団生活への適応訓練などの援助。

「グループホーム」  
自宅での生活が困難となった高齢者や障害のある人などが、施設職員による援助を受けながら少人数で共同生活する住まい。

「ケアホーム」  
介護を必要とする高齢者や障害のある人などが、入浴・排せつ・食事などの日常生活上の介護を受けながら少人数で共同生活する住まい。

「ガイドヘルパー」  
一人で外出することが難しい視覚障害者、全身性障害者、知的障害者に付き添い、移動を支援するヘルパー。

(敬称略)

## 区長さんお世話になります

### 〔丹波地区〕

- 菅尾／瀧村藤夫
- 中畑／中西和之
- 辻村／山島和則
- 中村／坂口武弘
- 下村／小峰雅人
- 鎌倉／福西昭博
- 西階／中村 忍
- 水戸／西垣秀夫
- 新水戸／徳島 保
- 須知／太田 實
- 市森／内海武治
- 上野／須知 穰
- 蒲生／林 稔
- 蒲生野／山形郁男
- 曾根／上田 勝
- 院内／野間周伯
- 幸野／西上盛商
- 森／伊野善人
- 塩田谷／小栗喜代司
- 安井／安井孝雄
- 富田／寺阪義一
- 豊田／門 秀輝
- 上豊田／野口密次
- 実勢／滝本 實
- 下山／前谷幹夫
- グリーンハイツ／比村住ノ江

- 八田／前田昌成
- 小野／谷内 豊
- 長谷／巽 憲子
- 坂井／上田眞道
- 水原／山藤幸治
- 上大久保／伴田則夫
- 下大久保／西田 肇
- 鎌谷下／荻野 繁
- 鎌谷中／田中 強
- 鎌谷奥／上田 隆
- 東又／太野正平
- 保井谷／竹内春雄
- 栗野／山内 厚
- 妙楽寺／上田 進
- 水吞／西垣裕司
- 三ノ宮／小山 満
- 質志／岡花輝男
- 戸津川／後藤和司
- 猪鼻／坂本教夫
- 行佛／久木寿一
- 中村／三好悦夫
- 庄ノ路／林 勝治
- 和田／岩田 哲
- 上野／水嶋正治
- 下村／大西重信
- 北久保／山根 宏

### 〔和知地区〕

- 中山／仲井範夫
- 升谷／藤井 弘
- 市場／越川貞雄
- 大倉／木上 實
- 篠原／中尾年秀
- 大迫／大田喜好
- 長瀬／竹内 透
- 塩谷／堀 喜一
- 上乙見／片山秀雄
- 下乙見／白樫 貢
- 西河内／中道真澄
- 下栗野／江本正昭
- 細谷／今西 正
- 上栗野／梅原健太郎

## 交通指導員(任期二年)

### 〔新任〕

- 丹波地区／山鳥佐千代(口八田)
- ▼古田祐一(高岡)
- ▼奥岸忠明(高岡)
- ▼和久田正和(須知)
- ▼村山隆義(安井)
- ▼樹山文美子(上野)
- ▼坂本 恵(院内)
- ▼上田隆司(豊田)
- ▼柘植奈保美(豊田)
- ▼山口知哉(下山)
- ▼藤井ふみ江(下山)
- 瑞穂地区／中西和昭(八田)
- ▼山下 泰(弁脇)
- ▼永田隆郎(天朴)
- ▼塩谷紀彦(水原)
- ▼西村明洋(猪鼻)
- ▼山内 慶三ノ宮
- ▼林 良史(質美)
- ▼室 正博(質美)
- 和知地区／清水博幸(市場)
- ▼野間雅彦(坂原)
- ▼片山友三(中)
- ▼片山智博(出野)

### 〔再任〕

- 丹波地区／平井法夫(須知)
- ▼副指導員長・水谷孝司(蒲生)
- ▼田中清次郎(富田)
- ▼北村谷子(実勢)
- 瑞穂地区／指導員長・軽尾圭造(鎌谷下)
- 和知地区／副指導員長・栗林耕治(塩谷)
- ▼山根勇次(小畑)

### 〔退任〕

- 丹波地区／谷垣利幸(口八田)
- ▼末富康二(高岡)
- ▼村田弘之(水戸)
- ▼太田克文(須知)
- ▼小室志げ美(塩田谷)
- ▼林 淳(蒲生)

## 行政相談委員(任期二年)

### 〔新任〕

- 片山俊明(本庄)
- ▼稲葉文男(下山)

### 〔再任〕

- 塩田喜一(三ノ宮)

### 〔退任〕

- 山崎信子(蒲生)
- ▼藤井重雄(升谷)



代表で委嘱状を受け取る中西和昭さん(町中央公民館・蒲生)

- 仏主／田井 進
- 本庄／吉田 昭
- 坂原／谷 治
- 中／野間靖隆
- 角／江本博司
- 広瀬／村上影次
- 才原／小林勝治
- 大簾／山内貞男
- 広野／樋口数利
- 出野／山森英二
- 稲次／蒲生英夫
- 安柄里／林 進
- 小畑／片山勝利

## 教職員の異動

〔転出( )は転出先なし〕

- 竹野小／校長・大東 均(南丹市立摩気小)
- ▼田丸文雄(南丹市立西本梅小)
- 丹波ひかり小／教頭・片山幸男(京都府南丹教育局)
- ▼坂本 誠(南丹市立胡麻郷小)
- ▼中田匡恵(京都教育大)
- 松山小／野口博之(福知山市立苑原小)
- 明俊小／大隅貴啓(南丹市立園部第二小)
- ▼中西ゆみ(亀岡市立城西小)
- 和知小／森島博彦(亀岡市立川東小)
- 蒲生野中／教頭・小森 誠(京都府教育委員会)
- ▼村田富三昭(南丹市立美山中)
- ▼吉田直史(南丹市立園部中)
- 瑞穂中／校長・柚田勇市(南丹市立八木中)
- 和知中／植田三樹子(亀岡市立高田中)
- 〔転入など( )は前任校など〕
- 竹野小／校長・野口耕平(和知小)
- ▼藤原 潔(三ノ宮小)
- 丹波ひかり小／教頭・卓 正是(京都府総合教育センター)
- ▼山川秀一(亀岡市立立川小)
- ▼古屋恵美(亀岡市立城西小)

## 人権擁護委員(任期三年)

### 〔新任〕

- 友金一郎(天朴)
- 〔再任〕
- ▼野口正利(豊田)
- ▼原澤淑子(高岡)
- ▼西田光子(下大久保)
- 〔退任〕
- ▼西野一志(弁脇)



人権擁護委員に委嘱されたみなさん(役場町長室・蒲生)

## 民生児童委員

### 〔新任〕

- 堀内奈緒(豊田)
- ▼横川 壽(豊田)
- ▼元井陽二(細谷)
- 〔退任〕
- ▼谷口敬一(中台)
- ▼田中利昭(豊田)
- ▼今西 正(細谷)

## 体育指導委員(任期二年)

### 〔再任〕

- 川勝忠司(下山)
- ▼副委員長・津田勝三(南丹市園部町)
- ▼東清子(高岡)
- ▼委員長・田中敏夫(橋爪)
- ▼西垣正則(水戸)
- ▼坂本貴之(猪鼻)
- ▼瀬戸 豪(蒲生)
- ▼副委員長・片田泰和(升谷)
- ▼山下貴典(篠原)
- ▼永井千鶴(中)
- ▼西田和志(中山)
- ▼田端敏子(蒲生)
- ▼田中身和(質美)

- ▼岡 泰之(京都府南丹教育局)
- ▼桐村陽子(松山小)
- ▼森 智子(明俊小)
- ▼下山小／稲元美紀(丹波ひかり小)
- ▼神先由佳(新規採用)
- 松山小／教頭・藤田道子(南丹市立鶴ヶ岡小)
- ▼由良知子(福知山市立雀部小)
- ▼敷本好央(明俊小)
- ▼明俊小／教頭・田中文彦(南丹市立摩気小)
- ▼平井伸子(竹野小)
- ▼三嶋 浩(下山小)
- ▼太田智美(南丹市立園部小)
- ▼小峰晶子(質美小)
- ▼宮本愛樹(新規採用)
- 三ノ宮小／近江 望(竹野小)
- ▼質美小／校長・内藤精一(明俊小)
- ▼松本正治(丹波ひかり小)
- 和知小／教頭・上田明成(松山小)
- 蒲生野中／教頭・河村泰宏(京都府南丹教育局)
- ▼栗林孝裕(南丹市立園部中)
- ▼片山巳喜男(和知中)
- ▼菊澤政夫(亀岡市立亀岡中)
- ▼吉田芳子(亀岡市立東別院小)
- ▼関岡佳代(新規採用)
- 瑞穂中／校長・大塚正広(南丹市立八木中)
- ▼平井浩一(和知中)
- ▼北篠貴子(蒲生野中)
- 和知中／泉 あや(蒲生野中)
- ▼乾 正(瑞穂中)
- ▼小林政喜(新規採用)
- ▼中林なつみ(新規採用)
- 〔退職( )は前任〕
- ▼湊友三郎(質美小・校長)
- ▼林 明子(下山小)
- ▼内藤妙子(松山小)
- ▼鍋田暁子(松山小)
- ▼今西春美(蒲生野中)

## 社会教育委員(任期二年)

- 太田明平(橋爪)
- ▼澤井安子(質美)
- ▼正田哲也(小畑)
- ▼白樫 貢(本庄)
- ▼隅山國夫(下山)
- ▼高柳秀文(本庄)
- ▼谷田頼郎(中台)
- ▼中野 昭(豊田)
- ▼西村恵美子(中台)
- ▼大塚正広(瑞穂中学校長)
- ▼森 久恒(三ノ宮小学校長)

## 婦人会

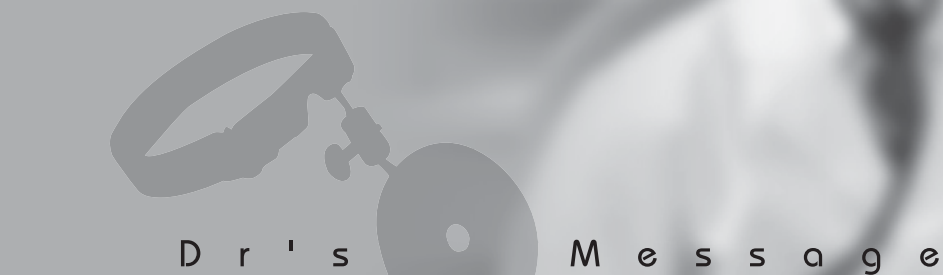
- 会長／西村恵美子(中台)
- 副会長／山内和代(須知)
- ▼片山加代子(大簾)
- 庶務／庄林幸子(中台)
- ▼久保元あき子(豊田)
- 会計／今海好代(西河内)

## 食生活改善推進員協議会

(ぐるみの会)

- 会長／太田世都子(才原)
- 副会長／山田純子(高岡)
- ▼太田明子(鎌谷下)
- 庶務／上田百合子(曾根)
- ▼山内よう子(栗野)
- 会計／尾池とし子(小畑)
- 会計監査／下澤智恵美(須知)
- ▼塩田フミ代(水原)

※退任されたみなさん、ご苦労さまでした。新しくお世話になるみなさん、よろしくお願ひします。



# いきいき健康術

第21回

## 「心臓の機能と不整脈について」

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。

今回の担当は国保京丹波町病院の内科医師 細見泰生先生。わたしたちの生命を維持する心臓の働きについてのお話です。

**みなさん**は、心臓に関してどのような知識をお持ちでしょうか。今回は心臓の機能や不整脈などについてお話します。

### 心臓の役割と機能

心臓は通常、胸部の左前に位置し、大きさは握りこぶし程度、重さは約三百グラムで、その働きは、酸素や栄養分を体中に送り、代謝されたものを肺や腎臓を通じて体外に放出します。

人間の一日の心拍数は約十萬回で、一回に六十―百ミリリットルの血液を送り出します。ほ乳類の心拍数は一生で十五―二十億回といわれていますので、心拍数が少ないほど長生きできることを意味します。ちなみに、ハツカネズミは一分間に約六百回で平均寿命が十八か月、象は一分間に約三十回で六十年前後の寿命です。そのため、人間がほ乳類の中ではもっとも長生きします。

しかし、心拍数が少ないほど良いわけではありません。心臓から送られる血液の量や血圧が問題になります。

ローマ・東京オリンピック男子マラソンで優勝したアベベ選手は、一分間の安静時の心拍数が約十五回で、走り始めると六十回以上に増加します。これは安静時に、一回の心収縮で普通の人の四倍の量の血液が出るということになり、動脈の受ける衝撃が実に激しくなることを意味します。そのことが金メダリストに短命な人が多いことと関係しています。

### 心電図で不整脈を判断

不整脈にはいろいろな種類があります。本人が不整脈を感じることもあれば、まったく感じない場合もあり、危険性は心電図をとらないと判断が付きません。

もっとも有効的な方法としては、二十四時間記録するホルター心電図があります。

不整脈は急性心筋梗塞などの基礎疾患の有無によって重症度が異なり治療も変わってきます。通常、不整脈のほとんどは無害ですが、その判断は心電図で検査しないとわかりません。

ご心配な方はどうかホルター心電図などの精査受診をするように心がけてください。



内科医師 細見泰生先生(国保京丹波町病院)  
[専門:循環器内科]

国保京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。  
**(電話) 86-0220**

町立医療施設の受診体制は、広報京丹波お知らせ版を参照ください。

## 地域の安心・安全を守る消防団に四十人が入団

京丹波町消防団入退団及び役員任命式

平成二十一年度京丹波町消防団入退団及び役員任命式が四月二日、蒲生野中学校体育館で行われ、消防団員ら約百六十人が出席しました。

同式では、森良行団長が本年度の部長と班長、入団者を任命した後、新入団員を代表して井上正輝さん(和田)が入団者宣誓を実施。その後、平成二十年度表彰の伝達や退団者への辞令交付などが行われました。

また、式の中で森団長は、「昨年度は火災が多く発生した。火災の発生件数が減るように、日ごろからの消防団活動に努めてください」と訓辞を述べました。

なお、入退団者および表彰受賞者は、次のみなさんです。(敬称略)

### 【新入団員】

#### ■丹波支団

- 中西佳彦▼千田浩孝▼世木義人
- ▼土佐典男▼長尾和彦▼山内規彰
- ▼和久田勝之▼井関仁志
- ▼岩崎一紀▼阿佐顕治▼樹山純也
- ▼樹山光宏▼澤田尚吾▼外川智三
- ▼平井祐一▼森崎健太▼津田健一
- ▼河瀬正良▼清水康仁▼小林洋祐
- ▼斉尾知洋▼野口健太
- ▼野々口智之▼村山和重
- ▼森 秀和▼渡邊寛人▼石田信人
- ▼松下進也

#### ■瑞穂支団

- 児島秀彦▼井上正輝▼上西慶文



入団者宣誓をする井上さん(蒲生野中学校・蒲生)

- ▼松野 光▼長谷川彬奈
- ▼西田裕作

### 【和知支団】

#### ■和知支団

- 三島喜来▼片山秀樹▼池田典聡
- ▼小田哲也▼片山拓巳▼坂下良介

### 【退団者】

#### ■丹波支団

- 山田明義▼山本浩生▼塩尻 完
- ▼清水裕貴▼村山智広▼柏木 始
- ▼田端嘉秀▼吉田辰夫▼中嶋良太
- ▼門田隆介▼中村清盛▼中野信幸
- ▼岩内正人▼細井志郎▼山内和行
- ▼野々口雅人▼細井 宝

### 【瑞穂支団】

#### ■瑞穂支団

- 松岡健二▼西野忠次▼上西 悟
- ▼竹村正司▼森脇晃治▼中畑 茂

- ▼三好克則

### 【和知支団】

#### ■和知支団

- 堀 政弘▼松下弘明▼藤田佳孝
- ▼藤田敏秀▼井爪英樹▼田井 誠
- ▼藤田昌稔▼片山茂史▼西村寛治
- ▼樋口直祐

### 【消防庁長官表彰】

#### ■消防庁長官表彰

- 永年勤続功労章 森 良行(団長)

### 【京都府知事表彰】

#### ■京都府知事表彰

- 増谷隆男(支団長)
- 精励章 伴田兼一(副分団長)
- ▼津田康裕(同)
- ▼西村孝之(同)

### 【日本消防協会表彰】

#### ■日本消防協会表彰

- 功績章 真野勝也(副団長)
- 精励章 大田有次(分団長)
- ▼田中誠一(同)
- ▼前林二朗(同)
- ▼西村寛治▼西村元邦

### 【丹波地方消防連絡協議会長表彰】

#### ■丹波地方消防連絡協議会長表彰

- 山田明義(部長)▼徳島俊行(同)
- ▼溝口久也(同)▼篠塚 淳(同)
- ▼細川智則(同)▼谷内誠樹(同)
- ▼久木寿一(同)▼林 幸男(同)
- ▼藤本正幸(同)▼野間正雄(同)
- ▼野間 義(同)

※平成二十一年度表彰のため、当時の役職名です。

## 調和をテーマに今年も盛大に開催

ふるさと人形展

第十八回ふるさと人形展(ふるさと体験資料館運営委員会主催)が四月三日から七日までの五日間、みずほ人形の家「みやび」で開催され、町内外から約六百六十人が来場しました。

同人形展は、平成四年から続く恒例行事で、今回は「調和」をテーマに、日本人形やこま、大ぬいぐるみなど、さまざまな人形をバランスよく配置したコーナーを新たに設置し、来場者を楽しませました。

また、期間中には、質美地区の地元有志や町共同作業所のみなさんによる模擬店などが出店され、人形展を盛り上げました。

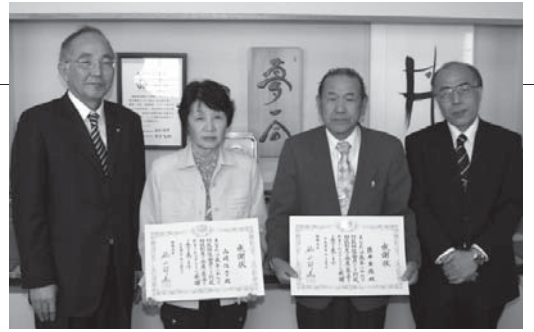


昔懐かしい土人形などを見つめる来場者(みずほ人形の家「みやび」・質美)

### 総務大臣から感謝状を贈呈

行政相談委員を退任された山崎さんと藤井さんに感謝状を授与

総務大臣からの感謝状を受けた山崎さん(左から2人目)と藤井さん(左から3人目)(役場町長室・蒲生)



このほど、行政相談委員として十年以上にわたる行政相談制度の発展に貢献された山崎信子さん(蒲生)と藤井重雄さん(升谷)に、総務大臣から感謝状が贈られました。おめでとうございます。

### 京丹波町の中核病院として新たなスタート

国保京丹波町病院看板除幕式

国民健康保険瑞穂病院から名称変更した「国保京丹波町病院」の看板除幕式が四月一日、同病院前で行われました。始業前に行った除幕式には、病院や保健福祉センターの職員ら約四十人が出席。除幕式では、松原茂樹町長と佐藤秀一郎院長が正面玄関前に設置された看板の除幕を行い、参加者らとともに新たなスタートを祝いました。その後、松原町長は、「町民のみなさんに『京丹波町病院は自分たちの病院』と



看板の除幕を行う松原町長と佐藤院長(国保京丹波町病院・和田)

認識いただくことが大事。将来にわたって医療体制が維持できるように、職員一丸となって努めていきたい」と参加した職員に訓示しました。また、同日から質美診療所は「国保京丹波町病院附属質美診療所」となりました。

### 景気対策と多子世帯の負担軽減を目指して

定額給付金と子育て応援特別手当の一斉申請受付を実施

四月十二日、定額給付金と子育て応援特別手当の一斉申請受付を、各集落の公民館など計九十五会場で行いました。高齢化が進む本町では、少しでも身近なところで申請ができるように、一斉申請受付日を設定し、各公民館などで臨時窓口を設けて申請書の受付事務を実施。この日の受付件数は、定額給付金が三千二百二十八件、子育て応援特別

手当が百二件となりました。

定額給付金は、国の景気対策の一環として、住民生活の支援や地域経済の活性化を目的に支給。子育て応援特別手当は、多子世帯の幼児教育期の負担軽減を目的に、要件に該当する第二子以降の子どもを対象に支給します。申請書の提出期限は十月二日までですので、申請されていない方はお早めに手続きを行ってください。なお、申請手続きなどでご不明な点があれば、定額給付金等対策室へお問い合わせください。

定額給付金等対策室  
☎821-0200



申請手続きを行うみなさん(林業センター・本庄)

### 期待と希望を胸に新たなスタート

入学・入園式

四月九日、町立中学校(蒲生野、瑞穂、和知)の入学式が各校で行われ、計百五十八人が入学しました。蒲生野中学校の入学式では、入学生代表の山田翔大さんが「今日の感動と感激を忘れずに、蒲生野中学校の歴史を築く生徒となることを誓います」と力強く宣誓の言葉を述べました。四月八日には、町立小学校(竹野、丹波ひかり、下山、松山、明俊、三ノ宮、質美、和知)で入学式が行われ、計百五人が入学。また、四月六日に三保育所で計



新入生を代表して宣誓の言葉を述べる山田さん(蒲生野中学校・蒲生)

七十八人、四月十三日には須知幼稚園で二十四人が入園しました。



保護者や在校生の前で歌う新入生(松山小学校・橋爪)



お兄さんお姉さんからの「歓迎の歌」を聞く新入児(わちエンジェル・大倉)

### 視聴者ニーズの把握や効率的な情報収集に期待

瑞穂ケーブルテレビ運営委員会と放送番組審議会が答申書を提出

三月三十一日、瑞穂ケーブルテレビ運営委員会と放送番組審議会(ともに、室田隆一郎会長、委員十三人)が、昨年七月に諮問を受けていた「ケーブルテレビの運営と業務の適正化および放送番組の適正化を図るために必要な事項について」の答申書を松原町長に提出されました。

同会は、町内全域への拡張整備も見据えた組織の運営体制や番組編成などを審議するために、三回の会議を開催。審議結果を踏まえた答申書では、「今後は、視聴者ニーズの把握や効率的な情

報収集などに、より一層力を注がれることを期待する」との意見が示されました。

町では今後、答申内容を踏まえた運営や番組編成などに心がけるとともに、二十三年度の全町開局を目指して拡張整備事業を進めていきます。なお、答申内容は次のとおり。

#### 【番組・放送内容】

現状のままでおおむね問題ないと判断するが、放送番組基準に定めた項目をバランスよく編成されたい。

#### 【運営体制】

現状の事業状況などを考慮し、アナウンサー二名体制を含めた適正な規模の人員配置などに配慮されたい。

#### 【番組編成】

拡張整備事業完了後を視野に入れて、生活情報や行政情報番組なども盛り込んで、さまざまな住民ニーズに対応し、現状よりさらに広く深い番組づくりを目指されたい。



松原町長に答申書を手渡す室田会長(役場町長室・蒲生)

### 「京丹波町防災マップ」を作成

「京丹波町防災マップ」を作成

町はこのほど、災害危険箇所や避難場所、災害への備えなどを記した「京丹波町防災マップ」を作成し、町内全戸に配布しました。防災マップは両面カラー刷りのA1版で、町内を八地区(丹波二地区、瑞穂三地区、和知三地区)に分けて、地区別に作成。片面には地震の断層図や土砂災害の前兆現象、避難の心得などを明記し、もう一方の面には、避難場所をはじめ、土砂災害の危険箇所や平成十六年の台風二十三号で浸水した地域など、地区別の航空写真を使ってわかりやすく示しています。



災害に備えて作成した「防災マップ」

町では今後、防災マップを生かした避難訓練の実施や予防・啓発活動に努めるとともに、関係機関との連携を強化していきます。

### わたしたちの町

人口	17,097(-27)
男	8,094(-9)
女	9,003(-18)
世帯数	6,504(+4)
5月1日現在( )は前年比	

### 職員の異動

■五月一日付け(敬称略)  
貞守京子(和知診療所看護師)  
山森要子(国保京丹波町病院看護師)



まちの  
元気人

ふるさと体験資料館運営委員長

北村

きたむらもとこ

始子さん (67歳)

和田



大切なのは「心の豊かさ」。  
温かみのある人形と  
出会って感じてほしい

「今年も多くの人に会えて、人形がうれしそうに微笑んでいるように見えます」と話すのは、ふるさと体験資料館運営委員会の委員長を務める北村始子さん。

北村さんは、昭和五十六年七月に同委員会の委員に任命され、平成十八年四月からは委員長に就任。同委員会では、「ふるさと人形展」を平成四年に開始し、春の恒例行事として毎年開催されています。

「人形は、子どもが生まれたときなどに身近な人からお祝いとして贈られ、何代にもわたって受け継がれてきました。そのため、奇贈いただいた人形一体に愛情や気持ちが入められているので、訪れる人から『人形に温かみを感じる』と言われます」と北村さん。会場に飾られた約千七百体の人形は、すべて寄贈されたもので、江戸時代に作られた土人形をはじめ、華やかな人形や洋人形など、さまざまな種類の人形が所狭しと並べられています。

「人形の目の大きさや顔の形、服装などで作られた時代が分かりますし、人形に付いた傷や汚れなどがこれまでの思い出や歴史を伝えてくれます」と北村さん。また、「三十年近く資料館の人形・民具と付き合いっていると、人形などに愛着がわいてきます。だから、一人でも多くの人に会ってほしい」との思いがあるそうです」と話されました。

これからの抱負を聞くと、「昔とは違って

現在は経済的な豊かさを求めがちですが、本当に大切なのは心の豊かさだと思っています。一人でも多くの人に来場いただき、贈られた人の気持ちや思いを受け継いだ温かみがある人形に出会うて心の豊かさを感じてほしいですね」と人形を見つめながら話す北村さん。今年も人形展には、人形との出会いを求めて多くの人が来場し、委員会のみなさんとの会話を弾ませながらゆったりとした春のひとときを過ごしていました。

(関連記事を13ページに掲載)

編集  
後記

今回の号が編集子として2年目の始まりとなります。振り返ると、昨年4月に初めて取材したのが「ふるさと人形展」。当時、カメラの使い方やインタビューで何を聞かかもわからないまま取材に訪れた新米の編集子を、笑顔で温かく迎えてくださったのが北村さんや委員のみなさんで、今も昨日のこのように思い出します。

今年の人形展の取材では、「はじめまして」から「お久しぶりです」に言葉が変わり、日常会話をする中で取材をさせていただくことができました。

編集子としてもっとも大切なのが「多くの人との出会い」。昨年に取材させていただいたみなさんとの再会を楽しみにしながら、より多くの人との出会いを求めて取材活動に励みたいと思います。(K)